

保育園からこんにちは

おとうさんのかお

いまいみちゃん(五歳) 柏本

五加保育園



No. 341 7/15



広報 ひがししかわ

発行 東白川村 ■編集 東白川村企画課 ■〒509-13 岐阜県加茂郡東白川村神戸548番地
☎05747)8-3111・内線26 ■印刷 益田郡下呂町下呂印刷株式会社

75分！超特番で村が沸いた

植の子ですっかり有名になった私たちの村へ、テレビ局から75分間の特別番組制作の話が持ち込まれました。

その公開録画が6月11日、放映が17日に行われ、村の人たちがCMから天気予報まで出演した手づくり番組が、東海3県下に大きな反響を呼びました。

— 関連記事 6～7ページ —



左から—おすぎ・向坂樹興・吉崎典子

パロディーCMの一場面

▲上…リポビタンでい〜こんを演じた

古田忠さん(上親田)

下…チャージしてま

んねんを演じた

大坪まゆみさん(平)右

伊藤美枝さん(平)左

人口の動き

— 6月末住民登録人口から—

世帯数	9 3世帯
人口	3,522人
転入	5人
転出	13人
出生	2人
死亡	3人

先月と比較して9人減
昨年の同月と比較して34人減

特集 立村百年 ふるさとづくり事業

海と山 の交流

交流

海と山の交流事業

おぼえ書きⅡ

香良洲町と東白川村の両町村は、山と海との美しい自然に親しむことによって自らの生活に潤いと、心にゆとりを求め、将来に向かってお互いに交流を深め合うことを旨とします。

- 一、私たちは、互いの美しい自然と融和の心を大切にします。
- 二、私たちは、互いに自主的な交流に努めるとともに相手を尊重して行動します。
- 三、私たちは、互いの行事などに参加し、協力します。
- 四、私たちは、互いの交流に必要な施設、設備などを提供し利用し合います。

平成元年六月二十八日
三重県一志郡香良洲町

町長 米川 龜一
岐阜県加茂郡東白川村
村長 桂川 眞郷



村からケヤキのついで立てを、町から漁船の模型を交流記念に！

三重県は潮騒の国、その中でも伊勢湾に面した白砂の海岸が美しい海の町、一志郡香良洲町との交流が、立村百年ふるさとづくり事業の一環として六月二十八日、スタートを切りました。

親善を誓い合い 「おぼえ書き」に調印

山里に住むわたしたちは、海のかなたにロマンを感じ、自然の砂浜に波打つ潮さいにあこがれを抱いてきました。村では体験できない海の生活。逆に海の町では体験できない山の生活をお互いに提供し合って親善を深めようという主旨でこの交流折衝が今年一月から始まり、この日実を結んだのです。

前十一時三十分から行われた式典の席上で、末永い親善と交流を誓う「おぼえ書き」に両町村長が署名・押印し、この縁組を取り持っていたいただいた一志郡白山町の山岡瞳町長とともに固い握手を交しました。

「香良洲町は昔、海だったところ。土砂がたい積してできた海の町で、自然が香る町です」と地図を示しながらあいさつを

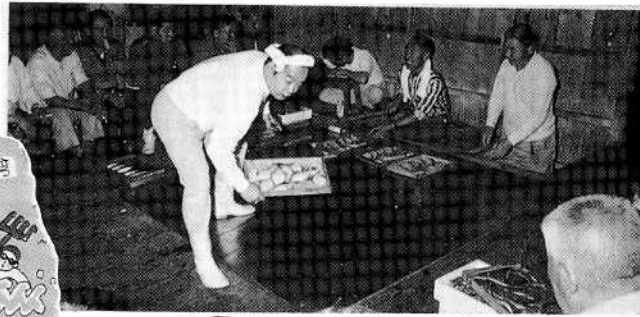
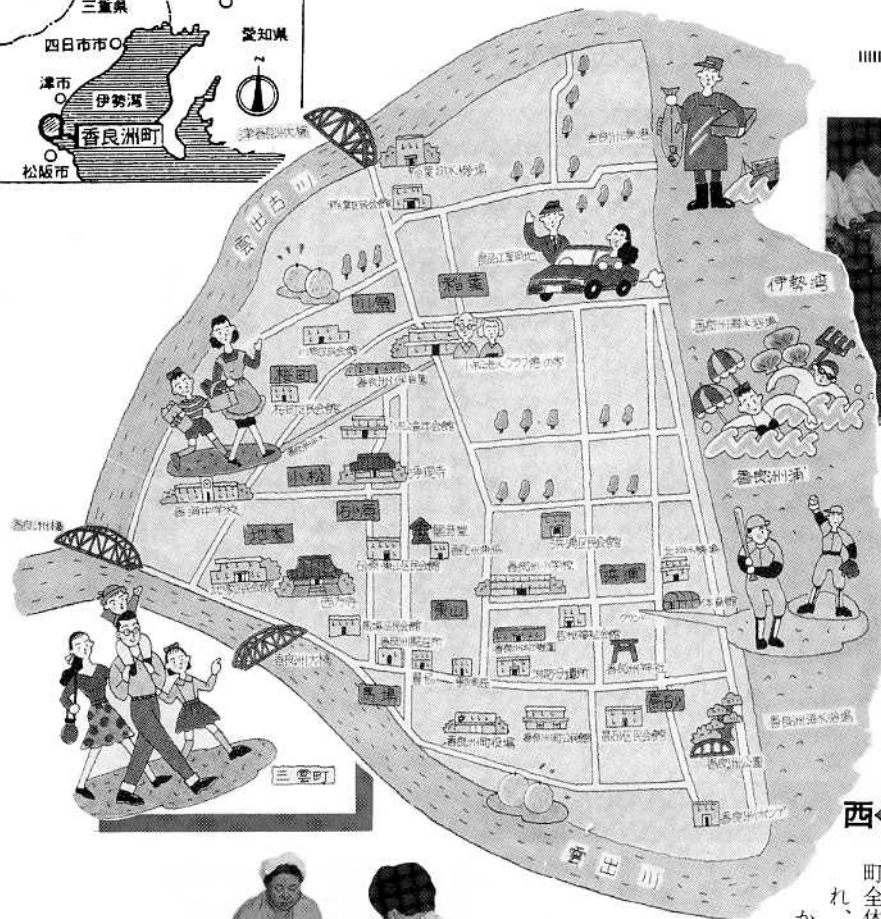


された町長の言葉のとおり、香良洲町も本村と同じように乱開発の手を免れ、豊かな自然を残す町制六十周年の町です。しかし、海抜〇メートル帯のため台風、高潮による被害を受けやすく、海と安心して暮らせる町づくりが進められています。

祝 香良洲町 交流協定調印式 東白川村



左から米川町長、山岡町長、桂川村長



潮の香り

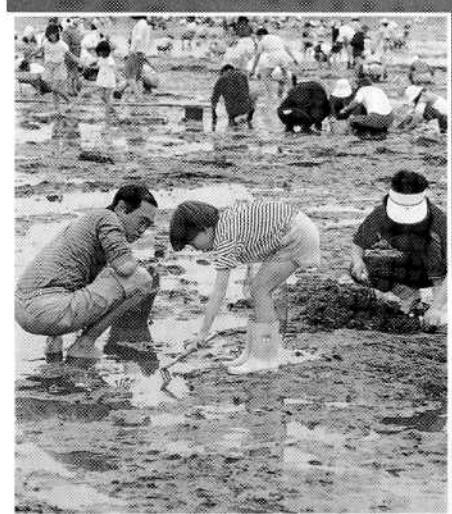
香良洲の漁業は、「獲る漁業」から「育てる漁業」へ…市の風景

小粒でも
魅力
いっぱい

香良洲町は、津市と松阪市の中央に位置し、伊勢湾に面した町で雲出川下流の



町全体が低湿な砂質土で覆われ、温和な気候であることから、梨の栽培が盛んに行われ町の特産となつ



土の香り

町の農業は米を中心に、梨・みかん・イチゴが主な作物

「普段衣でおつきあい」 交流に夢ふくらむ

自然を大切にする町と村の交流が、立村百年を迎えた村に新しい香りを運んできてくれました。

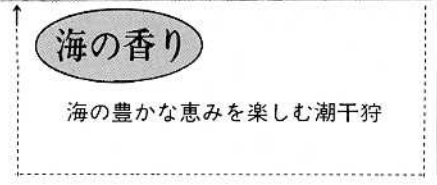
をしています。また、三重海軍航空隊をしのぶ若桜霊園、若桜会館。稚日女命をおまつりした香良洲神社、貝塚など歴史を感じさせる町でもあります。

両町村の願いは「普段衣でおつきあい」。格式張った交流ではなく、裸のままのおつきあいで自然を大切にする町と村の交流が、立村百年を迎えた村に新しい香りを運んできてくれました。

をしようということでした。行政の枠を越え、対住民、対サークルといった住民サイドの交流が気兼ねなく進められるよう準備が進められています。

海の香り

海の豊かな恵みを楽しむ潮干狩



特集 立村百年ふるさとづくり事業

実りある記念の年を 総参加で

テーマ & 見どころ

一億円の「ふるさと創生事業」は全国的な話題を呼んでいますが、わたしたちの村もいったい何をやるのか、と村民の皆さんの期待も大きいことでしょう。

また立村百年の記念事業にも関心が寄せられています。そこで、この「ふるさと創生事業」と「立村百年記念事業」にスポットを当て、計画の概要をお知らせしよう。(海と山の交流事業は前ページに紹介)

二つの事業の精神は同じ

「ふるさと創生事業」は、マスコミなどで何をやって良いというように報道されたこともありましたが、実際にはそうではなく、これからの村おこしの「キツカケ」となるような、地域の特徴を生かした、ユニークな事業であること。

そして、その事業の選択は、住民のアイディアなどを基本にして、住民代表による協議会などで相談して決めるのが好ましい、とされています。一方、私たちの村は今年、立村百年を迎えるため、これを契機に新しい

村づくりをスタートさせるよう、すでに六十三年度後半からその準備をしてきました。アイディア募集を行い、協議会を作るなど、「ふるさと創生事業」に先がけて事業を進めて来たのです。

このように「立村百年事業」も「ふるさと創生事業」も、その精神と推進方法はまったく同じものなのです。したがって、東白川村ではこのふたつの事業をひとつに

合体して「立村百年ふるさとづくり事業」と呼び費用も固から交付される一億円に村費を加えて、一億円以上の規模で実りあるふるさとづくりを行うことにしました。今後さらに細部計画を七月末までに確定します。

100年村づくり記念祭	100年村づくり記念展示会	100年記念大会
<p>平成元年十一月十九日</p> <p>立村百年を祝う祭りとして、村の人たちが、集い・語り・参加し。買い物に、遊びにと多彩で面白く楽しいお祭り広場をつくり出します。</p> <p>◆集落対抗仮装大会 村民参加型のイベントとし</p> <p>て、歴史を題材に集落・団体・有志等の参加により仮装大会を行い、会場をパレード。</p> <p>◆集落対抗ジャンボ野菜コンテスト</p> <p>作付品種を限定し、集落対抗で大きさを競う。優勝した栽培者には、東白川村野菜づくり名人の称号を与え、農業の楽しさを再発見するコンテスト。</p> <p>◆マーチングバンドなど</p> <p>○会場 東白川中学校及び小学校で検討中。</p>	<p>平成元年十一月三〜五日</p> <p>歴史のながれと現在の姿、そして未来を感じる展示会</p> <p>◆村民センターの玄関を入ると、そこは現代から百年前へとさかのぼるタイムトンネル</p> <p>そして四階の大集会室には、百年前と、戦中戦後、三十年前の家庭の居間が再現され、</p>  <p>村の人たちの暮らしの変化を体験することができる。</p> <p>◇順路↓総合案内(玄関)↓百年のかなたへ(三・四Fの階段)↓記念写真我家の平成元年(四Fロビー)↓時のながれに(大集会室)↓村の姿をビデオで(老人の部屋)↓未来の村の図画コンクール(農業研修室)↓記念文化展(林業研修室)</p>	<p>平成元年十一月 三日</p> <p>記念大会は、過去百年の先人の偉業に感謝し、将来の東白川村を考える未来宣言の場として、記念式典・記念講演を行い、歴史の節目として記憶に残る大会とする。</p> <p>◆記念式典</p> <p>○会場 東白川中学校体育館</p> <p>村づくりのために貢献された功労者表彰・未来に託す小中学生の作品発表・タイムカプセル取納・未来宣言など</p> <p>◆記念講演</p> <p>プロ野球評論家・金田正一氏「私の野球人生」おたのしみプレゼントなど</p> 



特集 立村百年ふるさとづくり事業

記念事業は村おこしアイデアが土台

村民の皆さんから寄せられた「村おこしアイデア」を整理すると、次の十項目となりました。

- (一) 河川・森林など生かした公園を作る。
- (二) 総合会館（文化会館）を作る。
- (三) 歴史民族資料館を作る。
- (四) 宿泊研修施設を作る。
- (五) 学習研修施設を作る。
- (六) 村営住宅を作る。
- (七) 花街道を作る。
- (八) 人材育成をする。
- (九) 他町村との交流活動を行う。
- (十) 特産物などの販売所を作る。

以上の十項目は、これからの村づくりのためにはどれひとつ欠くことのできないものばかりです。したがって(一)から(十)までは、今年中に計画づくりをする「第二次東白川村総合計画の見直し」の中に盛り込んで来年度以降、計画的に事業実施をしたいと思っています。

月三十日に開かれた「ふるさとづくり推進協議会」で、今年度実施することに決定しました。

さらに(十)の事業については、現在準備委員会を構成して検討を進めています。これまでもに出ている内容は、村の顔となり、開発の拠点となるような施設に、次のような機能を備えたものです。

- (一) 特産物、その他の特産の展示販売
- (二) 村の観光案内
- (三) 木造住宅などのあつせん
- (四) 朝市・夕市などのミニイベント
- (五) 喫茶・休憩など

そのほかの記念事業の概要は、下段の表に掲げたとおりですが、一つひとつの詳細については、今後それぞれの事業ごとに関係機関と内容を詰め、まとまりしだい順次お知らせしますが、すべての事業に共通する考え方は、「できるだけ多くの村民の皆さんに参加してもらおう」ということです。

肩のこらない、楽しい内容の中に、未来への夢を育てることができるよう、皆さんのお力添えをお願いします。

100年記念団体等事業	人づくり研修	記念制作	花の村・花の道づくり
<p>◆百イニングソフトボール 八月二十六・二十七 体育協会 ◆婦人ふれあいの集い 九月九日(婦人会) ◆記念芸能まつり、歌舞伎公演 九月二十三日(文化協会) ◆名木百選 十一月十九日(森林組合) ◆東白川小学校十年誌出版</p> <p>◆十一月一日(小学校) ◆蚕霊碑建立除幕式 十一月(養蚕組合) ◆記念祭野菜みこし 十一月十九日(園芸組合) ◆記念祭 ◆老人まつり 九月十五日、白寿立村百年記念号発行 十二月初旬(老人クラブ)</p>	<p>平成元年度から継続実施</p> <p>この事業は、これからの東白川村を担っていく人材を養成するねらいで、商工業分野での技能者(職人)を養成するための事業や、農業の中堅の経営者を養成する事業を展開してまいります。</p> <p>人材育成は一年や二年で成果があがるものではありません。</p> <p>版 十一月一日(小学校) ◆蚕霊碑建立除幕式 十一月(養蚕組合) ◆記念祭野菜みこし 十一月十九日(園芸組合) ◆記念祭 ◆老人まつり 九月十五日、白寿立村百年記念号発行 十二月初旬(老人クラブ)</p>	<p>平成元年度十一月完成</p> <p>◆記念ビデオ制作</p> <p>立村百年を迎えた村の姿をビデオに納め、ふるさとを再認識してもらおうとともに、未来について考えてもらおう。併せて、村外に村を紹介するビデオとして制作する。</p> <p>平成元年十月</p> <p>作品は、産業、教育福祉、歴史、祭り、自然などを約二十分にまとめる。</p> <p>制作したビデオは、記念大会、記念展で発表し、希望者に実費で配布。</p> <p>三十日完成予定</p> <p>◆記念誌制作</p> <p>百年の歴史を分かりやすい写真入りで表現した冊子を作る。全編約五十ページで、十月二十日をめどに作成し、全戸配布します。</p>	<p>平成元年度から継続実施</p> <p>◆花の道づくり</p> <p>六月二十六日、美しい村のPRに、老人クラブ、商工会婦人部員ら二百二十六人が出て、主要道路三・三誘にマリールーゴールドなど約六千六百本の苗を植え付けました。</p> <p>◆うるおい白川街道</p> <p>五加(不動滝付近)・神土(新魚戸橋付近)・越原(陰地パイパス杉田屋橋付近)に一箇所づつ、うるおいゾーンをつくる。</p> <p>◆みつばつじ自生地整備</p> <p>自生地を数箇所選定して整備。全村に果実木を植栽</p> <p>◆全村に果実木を植栽</p> <p>村民全員参加の記念植樹として、果実木の苗木を配布して、平成元年の春、植付けを行う。</p> <p>◆道路標識の整備</p> <p>間伐材等を利用して、道路案内の看板を設置する。</p>



心ふれあうやすらぎの7時間

デイ・サービスセンター

わたしたちが生活するうえで、旅行に出掛けたり、温泉につかったりスポーツを楽しんだりすることは、身心ともに健康な生活を送るための大切な健康法の一つです。

しかし、身体が不自由で寝たきりであつたり、一人暮らしで会話をする機会のない人たちは、こうした息抜きが出来ず、ストレスがたまって心の病にかかることがあります。



散髪サービス

このセンターには、体が不自由な方も寝たまま入浴できる特別浴室と、ヒノキの香りが漂う一般浴室が完備され希望する時間に利用することができ、談話室・休養室では楽しい会話が弾みます。そのほか食事サービス・生活指導・日常動作訓練、散髪などきめ細かなサービスも受けられます。

一番の魅力は利用者の玄関までセンターのリフトバスが送迎を行い寝台に寝たままでも、また車椅子に乗ったままでも乗車できることです。

東白川村社会福祉協議会では、そんな息抜きの場の一つとして、加子母村に建設された「デイ・サービスセンター」の利用手続を進め、この六月二十三日から利用できるようになりました。

このセンターには、体が不自由な方も寝たまま入浴できる特別浴室と、ヒノキの香りが漂う一般浴室が完備され希望する時間に利用することができ、談話室・休養室では楽しい会話が弾みます。そのほか食事サービス・生活指導・日常動作訓練、散髪などきめ細かなサービスも受けられます。



玄関先までリフトバスが送迎

二十三日に利用した四人の方は、みな口を揃えるように「どこも使いやすく作られており、週一回の利用ではおしい」という喜びの声が返ってきました。リフトバスの運行は、毎週金曜



心地よい特別浴室

迎えをすればいつでも利用できます。

利用時間は、午前九時三十分から午後四時三十分まで、一回の利用料は千二百円です。利用に当たっては、東白川村社会福祉協議会が窓口となっています。

こちらは！ワイド 東白川

ごつつおー便
プレゼント
34倍の狭き門
ワイドショーの
パロディー版として
製作されたワイド
東白川は、笑い
と感動を誘ったユニークな番組として
大変な反響がありました。

視聴者プレゼントの一つ「ふるさとごつつおー便・新茶便り」には三百四十通もの応募があり、三十四倍という倍率の中から十人にプレゼントを贈りました。

寄せられたハガキの上には、熱いメッセージがぎっしりと書かれ、「人情味あふれる生活を見て心あつく感じ



センターの職員はとても明るい！



問い合わせに対応

（け）（い）（じ）（ば）（ん）



戸籍の窓 六月 敬称略
誕生おめでとう
ございます

- （大沢） 安保 泰男（大地）
加代子（長男）
- （陰地） 菊田 章雄（朋香）
和子（長女）
- （有田） 尚樹（下親田）
- （吉野） 恵実（名古屋市）



おくやみ
申しあげます

- 安江虎男 76歳（日向）
 - 村雲為市 89歳（曲坂）
 - 今井貞一 80歳（下野）
- 善意の寄付 敬称略
（五加保育園へ）
砂場用砂ダンブカー一杯 安江庚己（柏本）
平均台一台 今井大作（柏本）

立村百年ごぼれ話……

戸隠神社の由来

平の高橋を渡った林の中。石神武夫さん宅付近に祭られた戸隠神社内に、六月二十五日世話人らの手によってりっぱな社標が建てられました。

高さ一・九メートル、幅〇・二〇メートルの社標には、「立村百年記念戸隠神社」と刻み込まれており、村内ではトップを飾った石柱の建立です。

現在、指定されている村の文化財は、国指定のもの一件と、村指定のもの十五件があります。村内にはまだまだ指定すべ

き価値のある文化財が、残存していると言われています。しかし、そのほとんどが創建された由来が不明のため、記されないまま残されています。

戸隠神社もその一つでしたが、最近になって創建された由来の一部がわかってきました。

長野県信州戸隠山にあり、奥社、中社、宝光社の三社が鎮座され、五穀豊穰、商売繁盛、開運、家内安全、厄除け、病氣平癒などのご神徳があると祈願されています。その、中社に祭られている智恵の神「天八意思兼命」を、この地に迎えたのが明治四十二年ころといわれています。

平の今井倉太さん(89)の話によれば、明治三年に徹底した魔仏毀釈が行われたのち、その影響ではないでしょうが、干ばつ、大雨、暴風雨に見舞われ農作物に大きな被害を受けたり、悪疫が流行した時期がありました。農民は、こうした不安と恐怖の日々を迎えると、必ず神に祈り信仰したものだそうです。

そんな時期に信仰深い有志六



↑ 再建された新しい社殿

村おこし「こんは」

ました「夏休みにはずせひ家族で遊びに行きます」という声や、村出身者から「ふるさとが東白川でほんとうによかった」「皆さんの頑張っている姿に涙があふれてきました」という視聴者の言葉は、ふるさとへの良さを改めて感じさせられるものばかりでした。また、「ヒノキの家」に魅せられた人々たちから三十軒の問い合わせがあり、放送翌日から早くも商談が進んでいます。七月十六日には、問い合わせのあった人を中心に村へ一日招待する現場見学会を、建築組合で予定しています。



総動員で建築の

めて感じさせられるものばかりでした。また、「ヒノキの家」に魅せられた人々たちから三十軒の問い合わせがあり、放送翌日から早くも商談が進んでいます。七月十六日には、問い合わせのあった人を中心に村へ一日招待する現場見学会を、建築組合で予定しています。

人(沢木定五郎・多賀駒吉・安江金松・丹羽浅造・田口梅太郎・今井金之介)が発起人となり、本社へ出向いて分祀されたものといわれており、当時の農民信仰をしのぶことができます。

その後、五月一日の祭典には、毎年戸隠本社から管長が来村し、東白川一番の太鼓が鳴り響くと、子供たちが集まり福引袋が配られたそうです。今井さんは「それをもたらるのがうれしくて何よりも楽しみだった」と、懐かしげに目を細めて話されました。昭和二十年ころになると、生活は苦しくなる一方で世話人もない状態が続き、社殿は老朽し、昭和初期ごろまであった拝殿も腐って取り壊されました。そこで、創建者の孫に当たる人たちが世話人となり、六十二年十一月に社殿を新築し、改めて御神体を迎えたのです。立村百年を機に、太鼓が鳴り響き子供たちが詰め掛け、当時のにぎわいを、再びよみがえらせる日も近いことでしょう。

かしげに目を細めて話されました。昭和二十年ころになると、生活は苦しくなる一方で世話人もない状態が続き、社殿は老朽し、昭和初期ごろまであった拝殿も腐って取り壊されました。そこで、創建者の孫に当たる人たちが世話人となり、六十二年十一月に社殿を新築し、改めて御神体を迎えたのです。立村百年を機に、太鼓が鳴り響き子供たちが詰め掛け、当時のにぎわいを、再びよみがえらせる日も近いことでしょう。

青少年の主張に

会場満員!

六月十日、村民センター大集會室で青少年の主張大会が開かれ、約二百人の聴衆が青少年十二人の主張に耳を傾けました。今年の発表者とテーマは次のとおりです。

- ◎東白川小学校「五年生」安江勇樹(栃山)「ぼくのお父さん」
- ▼同村雲悠紀(中谷)「わたしの願い」
- ▼同(六年生)大坪正明(上親田)「剣一筋に」
- ▼同大坪伸江(上親田)「がんばれ! 塗師のおじさん」
- ◎東白川中学校「二年生」土井宏治(柏本)「地域のためにやりたいこと」
- ▼同栗本昌子(平)「家族のために」
- ▼同(三年生)桂川亮(平)「消費税について」
- ▼同安江真弓(黒淵)「私の将来への希望」
- ◎ジュニアリーダークラブ「白川高校二年生」新田恵巳(加舎尾)「村おこしについて」
- ▼同有田千夏(下親田)「将来への希望」
- ◎青年団 田口輝久(中谷)「青年団として考えていること」
- ▼安江文子(下親田)「ふれあい」を求めて

歴史の証言・立村百年の記録 (第十五話)

「鮎」、日本の淡水魚の中でこれほどまでに多くの人を魅了したものはほかにないだろう。その鮎が瀬をのぼるように、歴史を遡ってみよう。

又右衛門 鮎を射つノ

伝説「五介の滝」に登場する鉄砲の名手「岩手の又右衛門」が若かりしころ、五加柏本の白川で瀬をのぼる鮎を射って修行したという話が残っている。

又右衛門は元禄十一年(今から二百九十一年前)まで存命した実在の人物であるから、そのころも鮎が瀬上していたことは確かのようにある。

鮎に関する史料の中で古いものは、安永二年(二百十六年前)に神土村、柏本村から藩主(苗木藩)に塩鮎を献上した、とある。

当時の漁法は、投網、築など、その年の天候や水温の良し悪しで、成育や漁の成果が左右されるのは、今も昔も変わらない。

嘉永六年(百三十六年前)神土村庄屋の残した文書の中に、「丑八月、九月は天気続き、その年鮎たくさん湧り、九月十六日ごろに柏本・中屋辺の湖にこもり、よく獲れ申し候、川の瀬にも居り申し候、投げ網を川上へ

打ち、勢子いたし候得ばとれ良し、夜分網を張りたまつ灯し勢子いたせば獲れよろし」と記されている。

投網で鮎を一網打尽に、などということは今では夢のようであるが、火ぶりは今も連綿と続いており、夏の夜の楽しみひとつとなっている。

明治に入ってから築場はあちこちに設けられた。

しかし白川は、いったん雨が降るとすぐ増水し、水が納まると築場は影も形も無くなっている、という状態で、築漁は投機的な要素が強かった。

淵にこもりよく獲れ申し候

清流白川に躍る昔の鮎と今の鮎

大正末期になって、下流にダムが作られ、天然鮎の瀬上は途絶えてしまったのである。

その後昭和に入って、各地で稚鮎の放流が試みられるようになり、私達の村でも、昭和六年、白川筋漁業組合が設立された。

この組合が現在の七宗町川並あたりで天然稚鮎を捕獲して白川一帯に放流したのが、現在のような放流鮎漁の始まりである。

ここにその時の経過報告書があり、なかなか興味深い記録に触れることができる。

鮎移植放流事業経過報告
事業経営者 今井廉一
捕獲担当者 有賀宮一郎
捕獲期間 昭和六年六月七日〜六月二十六日
捕獲魚体重 最大六寸(二十匁) 最小三寸(四匁)
平均四寸(七匁)
捕獲総尾数 参万六千参百尾
費用 二百五十六円

それにしても、放流する稚鮎



時代が変わっても白川の鮎は太公望のあこがれ

の平均が十三cmを越え、最大で二十cm、今ならそのまま焼いて食べてしまいそうな大きさである。

これを三万尾以上も捕獲したのだから、さぞかし面白かっただろう、と考えるのは凡夫の浅はかな考えだろうか？

二百五十六円の総費用の中には、氷百貫(三百七十五匁)の代金十五円が含まれており一千三百尾が死んだので、放流したのは三万五千尾であったとも記されている。

いずれにしても、なかなか大変な作業であったのだろう。さて、この白川筋漁業組合は昭和十九年、加茂郡川辺町から

益田川と馬瀬川の合流点までの飛驒川水系を範囲とする「飛驒川漁業会」に属することになりさらに昭和二十四年、水産業協同組合法の施行によって「飛驒川漁業協同組合」に改組され現在に至っている。

発足当時の組合員は千八百九人、現在は六千四百五十八人というマンモス組合となっており日本人の手近かなレジャーとして釣りがいかに愛されているかを示しているようである。

このうち東白川支部の組合員は九百六十七人で、世帯数を上廻っている。

また近ごろは女性の組合員も増えつつあり、鮎を愛する人は男性から女性へと、しだいにその巾を広めながら、今年七月二日の友釣り解禁には、白川の水面上の人口が一挙に膨れあがったのである。

さて、釣果はいかに……

お わ び

先月号の昭和六十四年一月一日現在の苗字一覧表の中に、山中、山路、田尻、岩井、木野瀬、竹内、大久保、仲沢、森、の苗字(いずれも各一戸)が落ちていましたので、おわびして訂正します。

話題集れ!

あなたのまわりに明るい話題がありましたら係まで連絡ください。

連絡先 商工広報係 有線2155番

ふるさとの味今回はツチノコが主役

今年で二年目を迎えた東白川村ふるさと会は、このところのテレビ放送や、槌の子ブームの影響を受けて順調に会員が増え、六月末で二百五十四人にふくれ上りました。

今年度は、「白川茶つちの子セツト」と題して、ツチノコを形どった五平餅や、卵焼きをツチノコに見立てた朴葉寿司など八品を詰め合せ、菖蒲湯セツト(菖蒲、ニンドウ・ヨモギ)をサービス。届けた先からは「どれもこれもおいしかった」と、喜びの声が寄せられています。

第三分団県大会出場権を獲得

☆郡消防操法大会

六月十八日、第三十三回加茂郡消防操法大会が、東白川村総合運動場を会場に開かれ、七町村十一台の消防ポンプ自動車が

出場して日頃の訓練の成果を披露しました。

午前八時、白川高校女子生徒七人が手にしたプラカードを先頭に、七町村の隊員総勢四百四十人による堂々たる入場行進が行われ、白川町消防団が先陣を切って操法を披露。本村の出場順位は、第一分団が六番目、第三分団が八番目とくじ順が良く、それぞれウォーミングアップを充分に行って大会に臨みましたが、さすがに緊張の色は隠せない様子で、目を閉じて精神統一をしたり、ほほをたたいて気合を入れたかいがあつて本番になるとプレッシャーを感じさせない機敏な動きで、すばらしい操法を披露してくれました。

大会の結果は、本村の第三分団がみごと優勝に輝き、次いで第一分団が準優勝を納める三十回大会以来の最高の成績を納め、



表彰を受ける第3分団隊員



操法開始一第1分団

来たる八月六日に高山市で開催される県操法大会に第三分団が加茂郡を代表して出場します。

第三十三回 加茂郡体育大会

スポーツシーズンの到来を告げる第三十三回加茂郡体育大会が、川辺町と七宗町を会場に開かれ、村から百三十八名の選手が十一種目に参加しました。

安定した強さで一般剣道3連覇

中でも、一般男子剣道は、今年も五人制の団体戦を四人で戦い三年連続優勝。また、家庭婦人バレーボールは、選手九人とぎりぎりながら持ちこたえのパワーとチームワークで準優勝を納めました。そのほかの種目も次のように立派な成績でした。



健闘する婦人バレー(コート右側)




十五歳未満の部 安江誠 十一人で勝ち取った総合五位 加茂郡陸上体育大会

六月二十六日、白川町を会場に開かれた第二十回加茂郡陸上大会には、十一種目十一名の精鋭が出場し、総合五位という成績を納めました。

中には一人で三種目に出場し健闘するなど、加茂郡でただ一つの村がまたまた大活躍です。

- 入賞は次のとおり
- 優勝|| 壮年三千斤 今井保都
- ・一般女子砲丸投 松岡成子
- 準優勝|| 一般女子走高跳 安江文子
- ・一般女子走幅跳 田口忠美
- 三位|| 一般女子走幅跳 安江美和
- ・一般女子四リレー 松岡成子・安江文子・田口忠美・安江美和

おしらせ



愛の血液助け合い運動
(7月1日～31日)

七月二十三日(日)は 参議院議員選挙 の投票日です

「行きましたか?これがあいさつ選挙の日」
今回の参議院議員通常選挙は、今後の国政を決める重要な意義をもつ選挙です。
候補者の政見などを、よく見、よく聞き、よく考えて、きれいな選挙で立派な代表者を選びましょう。

なお、今回の選挙も政党または政治団体に投票する比例代表選挙と候補者個人に投票する選挙区選挙で行われます。投票時間は、午前七時から午後六時までですが、投票日に、病氣・仕事・旅行などの理由で投票できない人は、七月五日から七月十二日までの間、不在者投票ができますので役場へお出かけください。
また、身体に重度の障害がある人は、郵便による不在者投票ができます。

詳しくは、村の選挙管理委員会事務局(役場総務課行政係)有線二二三一にお尋ねください。

100 イニング

ソフトボール 参加者を受けます



東白川村体育協会では、立村百年を記念し、百イニングソフトボール大会を総合運動場を会場に、八月二十六日(土)午後七時から二十七日(日)午後六時までの約二十四時間をかけて行います。

この大会は、毎年行ってきた村民親睦ソフトボール大会に代わるもので、これまで一般・壮年・婦人の部に分れて出場していた全チームをチームごとにつなぎ合せ、一チーム約五十イニングを受け持って全体で百イニングに

進めています=ふるさとづくり

- (工事名・工事箇所・事業量・施工業者・完成日・事業主体の順になっています)＝敬称略＝
- 【平】区画整理(神戸奨)・0.4ha・丸ス建設・11/30・県▶向山林道改良・185m継続・山田土建・8/26・村
- 【中通】川向線舗装(村雲兵衛～安江隆司)・165m・山田土建・8/9・村
- 【神付】基幹農道舗装(五葉会館～中島克己)・893m・西野建設・9/30・県▶基幹農道法面吹付(同)・芝建・7/31・県▶黒岩線舗装(神土角領線～安江一夫)・54m・山田土建・8/9・村
- 【中谷】中谷本線舗装(基幹農道～安江博)・232m・大脇建設・8/31・県▶基幹農道ブロック積(集会場付近)・山田土建・9/30・県
- 【加舎尾】大畑線舗装(村雲工業～新田義男)・740m・マルト土木・11/10・村▶外洞線舗装(村雲久夫～村雲邦雄)・498m・大脇建設・8/31・県
- 【西洞】西洞林道改良・41m継続・丸ス産業・9/13・村
- 【曲坂】区画整理(上)・3.7ha
- 山田土建・12/20・県
- 【日向】高旗林道開設・983m新規・山田土建・12/9・村▶日向本線改良・300m延長・立保土木・12/9・村▶欠の瀨橋橋梁修繕・山田土建・7/18・村
- 【陰地】区画整理＝陰地上・2.5ha・東部建設・11/30・県●陰地中・3.6ha・以下同●陰地平・2.2ha・山田土建・以下同●陰地下・1.3haマルト土木・10/31・同▶菊久里林道開設・1137m継続・マルト土木・H2.1/27・村
- 【枋山】都加太地林道開設・906m新規・立保土木・H2.1/9・村
- 【黒測】中道線舗装(安江定市～ちびっ子広場)・141m・立保土木・7/28・村
- 【大明神】新田線舗装(熊沢英治～県道)・68m・山田土建・8/9・村▶垂洞線舗装(桂川耕輔～安江隆造)・227.5m・以下同▶山元線舗装(田口清～山元橋)42.8m・立保土木・7/28・村
- 【宮代】区画整理・3.0ha・丸登建設・12/20・県▶
- 【下野】防火水槽新設(寺坂五郎横)・新田建設・8/28・村

シリーズ 思いやりと暮らし || その十 ||

優しさ・厳しさ

何んでもやりたい放題にして
おく……これは優しさでしょうか?
「自由にしておくほうが
良いから」「それはおかしい。
我慢も教えずには」と意見は
それぞれかと思えます。
やりたい放題は「我が儘」な
心を生み出します。これだけで
すと将来壁にぶつかるととき、
もろくも崩れてしまします。
相手を本当に大事にするとい
うとき、やはり「我慢」「こら
える」ということも教えていき
たいものです。

今月の図書



転んだら起きればいさ

内海桂子著

過ぎしことされど女のひとりごと……女漫才の頂点に立つ「突っ張りお桂ちゃん」。貧窮の中から、ネジを巻き歩んだ波乱万丈、抱腹絶倒の昭和快女伝!!

笑い、笑わせ、昭和を、生きた桂子、好江コンビ結成40周年記念作品として出版され「人生七ころび八おき」の原点を私達に教えてくれる本として紹介します。

哀しい予感

吉本ばなな著

19歳の少女弥生が過した初夏の物語り。失なわれた家族の愛の奇跡に祈りをこめて――

家出しておばの家に身を寄せながら真実の愛を求め、家族のきずなどは何か、を問いかける吉本ばななの代表作品として紹介します。

ふるさとのことば ⑦

★うむす

暑い季節になりました。湿気が多い日は特に暑さを感じます。思わず「うむすのう」とあいさつの言葉が出てしまいます。

ところで、この「うむす」という言葉は、もともと共通語の「蒸す」が変化した語で、湯気を通して熱することをいいます。よく「おこわをうむす(強飯を蒸す)」などといえます。

この「うむす」という語は、木製の古びた蒸籠で、もち米などを蒸すときにびったりする語で、今のように圧力釜などで蒸すときは、やはり「炊

く」といった方が似合うようです。

さて、「うむす」という語は、「むし暑い」という意がありますが、もとになつて「蒸す」は「風が無く温度が高く、しかも湿気があって、暑さがこもる



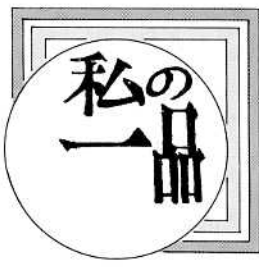
ように感じられる。湯気の中にいるように熱くてじとじとする」という意ですから、ちょうど今ごろの天候にびったりという感じ

「うむす」という語は全国的にかなり広範囲に用いられ、北は青森県から南は九州の熊本県

まで分布しています。

「うむす」に関連して「うみる」という語があります。この語も「むし暑い」「物が蒸せられる」の意で、「今日はばかにうみるで、夕立やくるかもしれんぞ」「もちごめやもううみるら」などと使います。この「うみる」も岐阜県のほかに中部の各県、それに鳥取や広島、熊本県でも使われるようです。

「うむしやき」といいます。食べ物を蒸し焼きにすることで、いろいろの灰の中にサツマイモを入れて「うむしやき」にしたり、ムカゴを葉っぱにくるんで、これもいろいろの灰の中で「ずむしやき」にして食べたことを懐かしく思い出す人も多いことでしょう。



蝶は語る



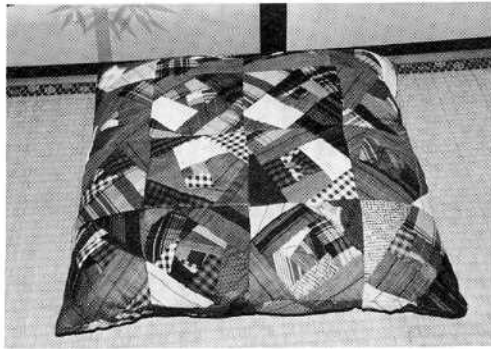
大沢地内で採取されたチョウの標本

このところの穂の子の出現を「区画整理で土を動かしたからでしょう」と答える。言い換えれば環境の変化につれて、自然も変化しているということです。土地改良事業などにより地域の自然はどう変化しているのか?。そんな点に着目した大沢の今井房雄さんは、三年前からチョウの採取を始められました。生物の中で、手始めにチョウを選んだ理由を「鳥類や魚類は、自分が病気になる前まで、

通じて生態の変化を感的につかんでいる。しかし昆虫については、関心が薄く一度調べたいと思っていた。特にチョウは目につきやすく、採取が容易である点と、その食性から植物の状態を併せて知ることができからです。

すでに採取した四百点近い標本を手に、「以前捕れなかつたチョウが目につくところに出てきている。例えば、ウズバシロチョウなどは、三十七年の教員生活の中でついに見つけられなかったものの一つ。また激減したチョウには、ギフチョウが挙げられる。昭和四十年ころは、春一番に目につくチョウだったのに、この三年間で採取したのはわずか二羽。ギフチョウが好むカンアオイは生えているが卵を産みつけていない。全体的に見れば、チョウの種類は増えているが個体数が減っている」というのが現時点の感想。中でも、大型のアゲハ類の標本が私の一品と目を細めて話される。「採取したチョウの分類は、その道に詳しい日向の村雲芳明先生の指導を受けて分析したい」という今井さんの夢は、さらにチョウ以外の昆虫を手掛「地域の変遷と自然」をまとめ上げるのだそう。

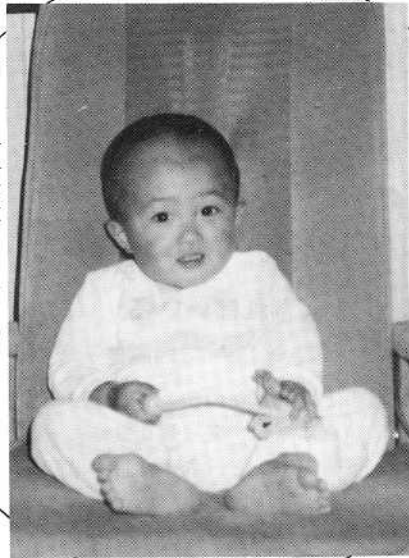
私の作品



▲座布団カバー（小布利用）
（廃物利用アイデア作品）
古田さか江さん（平）



▲県歯科コンクール出展作品
東白川小学校 2年 古田太白くん



今井健太くん（一歳〓中通）
孝司さん・鶴代さん（長男）

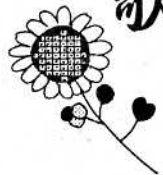
すくすく育て



▶立村百年PRポスター
東白川中学校
二年生 田口真美さん
（加舎尾）

- 宝曆九年大工浅吉と板に書き唐箕の中に蔵めしまぬ人 伊藤 重雄
- 水量は豊かならねど減反の田に鯉の稚魚五千尾を放す 早瀬 勇造
- ベトナム難民木の船に乗りて百余人長崎へ着きぬ梅雨寒き朝を 今井 かな
- 屋根裏の雀の親子はかしましく今日巢立ちけり梅雨の暗れ間を 田口 一枝
- 茄子の苗七百十本植え終へて夕べの側溝に泥靴を洗ふ 安江 澄
- わづかなる母の赤き実のみ食みゆくは狸なりしか夜毎来りて 伊藤 美枝
- 中尊寺金色堂のみ佛のしづかに座します面やはらかに 安江 竜玉
- 母の日に子の贈り来し洋花は白き掌状花スパティフェラム 安江 節子
- 蒸し暑き夕べ一ツ時幼な兒か園場整備の盛土に遊ぶ 安江 守平
- 中国の動乱意外なる事態の動きをテレビに見入る 安江すみよ
- でてばつぼうと山鳩の声聞きながら草を除けり初夏の日ざしに今井 弘恵
- 庭の藤の香に集ひくる蜂の群音なして来ぬ夜明けと共に 古田よし江
- 掃き寄せて高ほどもなき竹落葉捨つれば流れに吸ひ込まれゆく 三戸 きり
- 井戸船に風が散らせし山桜水の面に揺らぐわが顔もある 安江 香
- 髪を直し目立たぬ程の化粧して海鳴り聞ける街に行き度し 小池きぬゑ
- さなき時雨 わが唄へば手拍子の揃ひて嬉し花婿は孫 安江 幸
- 夕顔に手をやり乍ら早く花ををよと独り言言ふ小雨に濡れて 村雲 久子
- 勤めもち田畑荒れゆく様みればこれでよきかと身は責めらるる 小池 弘子
- 〃生き残るために〃という語の流行るなりさて百姓は如何なものか 山川 洵
- 開け放ち稲妻照らす部屋ぬちに臍を押さへて寝ぬる涼しさ 田口 良三

短歌



あなたの作品をお寄せください。
 ・初心者、とくに若い人たちの投稿を歓迎します。
 ・毎月20日までに、神土伊藤重雄宛に出してください。